

桜島・カンパチ・温泉の町
みんなできつろう明るく活力ある

協和



協和づくり計画

(初 版)

平成 26 年 11 月

協和地区公民館

協和の一年



▲3月 一日ハイキング大会



▲11月 文化祭、相撲大会



▲9月 小学校運動会、校区運動会、カンパチ祭り

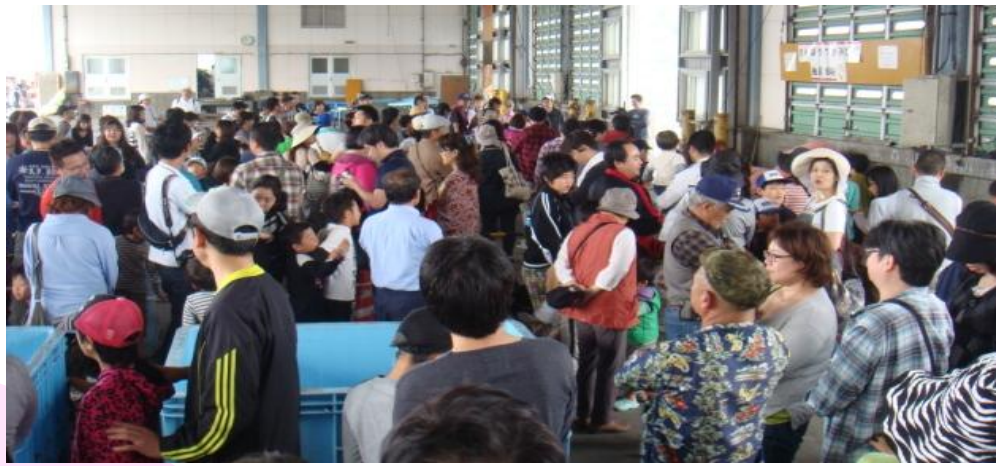


▲9月 敬老大会 2

春

冬

秋



▲5月 カンパチ祭り



▲7月 中俣子ども神輿



▲9月 敬老大会 1



▲7月 中俣・海潟六月燈、集落座談会

夏
火

夏



**桜島・カンパチ・温泉の町
みんなで作ろう明るく活力ある協和
～ 協和づくり計画 ～**

も く じ

(巻頭「協和の一年」)

1 協和づくり計画って? 1

2 「協和はこうありたい(行動計画)」 2
「こうありたい」のため、「だれが」、「いつ」、「何をする」

3 協和づくり計画の使い方 14
(1) 協和づくり計画の位置づけ (2) 計画の実行 (3) 行動の振りかえり

〈資料1〉策定委員会

(1) 協和づくり計画策定委員会規程 15

(2) 委員会名簿 16

(3) 策定経過 17

(4) 写真でたどるあしあと 18

(5) アンケートの実施と結果 20

〈資料2〉協和の歩み 32

(1) 沿革 (2) 地勢と歴史 (3) 桜島の大爆発 (4) 漁業 (5) 農業
(6) 海潟温泉 (7) 協和地区の現在 (8) 協和の人口の推移

〈資料3〉協和地区が紹介された新聞記事等 39

あとがき 42

1 協和づくり計画って？

協和づくり計画は、協和地区の人々の思いを受け止め、協和地区の住民が考えて作り上げた、これからの協和地区のための将来像（ビジョン）です。

協和づくり計画は、話し合いをとおして整理した「協和はこうありたい」、を実現するために、関係する組織や団体名を挙げて、「だれが」、「いつ」、「何をする」のかを、動く内容としてまとめています。

協和地区のみなさん、次のページから始まる「協和はこうありたい」に向かって好きな協和を引き出し、行政とも協働しながら明るく活力ある協和をつくっていきましょう。



協和はこうありたい

こんな協和にしたい

協和づくり計画の大目標を、
**「桜島・カンパチ・温泉の町
みんなで作ろう明るく活力ある協和」**
とします。

2 協和はこうありたい（行動計画）

	こうありたい	だれが	いつ、何を			市役所関係課長等の見解
		地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
暮らした自然の環境	<p>伝統を継承し、好きな協和を大事にしたい</p>  <p>▲ 一日ハイキング大会</p>	<p>協和地区公民館 各振興会 中俣公民館 協和小学校 協和小学校PTA 子ども会育成会 中俣下川踊り保存会 民生委員 老人クラブ 民泊受入部会協和地区 住民有志 地域振興のため新たにつくる組織 海湯温泉再生会</p>				
			<ul style="list-style-type: none"> ○30年続く春の一日ハイキング大会の参加者を増やす。 ○協和地区名物「ろっぺもっ」の作り方、食べ方教室を開催し、「ろっぺもっ」を広めていく。 ○毎夏恒例の集落座談会を通して、青少年の健全な育成を図るとともに、協和の知恵や知識を継承する。 ○地区文化祭、相撲大会を開催し、地区の伝統を守っていく。 ○郷土の誇りとして、校区運動会を盛大に開催する。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ、となり近所への声かけ、子どもたちの育成を地域ぐるみで行う。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○中俣、海湯の六月燈を継続し、地域に根差した文化を次世代に伝えていく。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○空き家を借りたい人に貸し、有効に活用する。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○中俣下川踊りを保存し、発表の機会を増やす。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○大太鼓(うでこ)踊りやほそ踊り、中俣上川踊りなどを復活する。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○地域振興のための新たな組織をつくる。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ○協和の歴史、郷土の偉人に詳しい人が、知らない人に伝える場をつくる。 ○協和に点在する石碑の拓本を取り、戦跡なども調べる。 ○昔の写真、映像を集め、フェイスブックなどで発信する。 ○教育旅行生や観光客に対して、ボランティアガイドが協和地区の文化財を紹介する。 			

2 協和はこうありたい（行動計画）

	こうありたい	だれが	いつ、何を			市役所関係課長等の見解		
		地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)			
暮らしや自然の環境	<p>伝統を継承し、好きな協和を大事にしたい</p>  <p>▲ 中俣下川踊り</p>	市	社会教育課				<p>※1 郷土芸能補助金交付団体の選考に関しては、活動が活発な団体を優先的に選考しています。 また、県及び民間団体の助成事業についても活用を推進します。</p> <p>※2 拓本については、地域の文化を後世に伝承するという観点からも大切であり、地域の方が積極的に拓本技術の習得をしていただくことは大変重要です。 また、協和地区の戦跡については、現在のところ教育委員会では把握しておりませんが、今後県文化財課等にも協力を仰ぎ、調査していきたいと考えています。</p> <p>※3 育成に関しましては、講演や地域の文化財めぐり等支援しますが、まず、地域の方々が歴史、文化財に興味や関心を持つことが必要です。 市史や史料集については、市立図書館の蔵書を積極的にご活用ください。(社会教育課)</p> <p>※3 協和地区の文化財等の資源の調査をいっしょに行い、ガイド育成を支援していきます。(水産商工観光課)</p> <p>※4 空き家バンク制度に登録していただいた空き家情報を市のホームページで公開し、借り主(買い手)と貸し主(売り手)との橋渡しを行っております。 また、家財道具処理費用を補助する制度も設けておりますので、ご活用ください。 今後、地域と行政が協働して課題の解決を図る仕組みを検討し、実施していきたいと考えています。</p>	
				○郷土芸能については活発に活動されたい。また、市主催のイベント等への出演機会を提供していく。※1				
				○石碑の拓本、戦跡の調査方法の指導については、可能な範囲で対応する。※2				
				○協和地区の文化財を紹介するボランティアガイド育成について、積極的な支援を行う。※3				
			水産商工観光課					
				○教育旅行生や観光客に対するボランティアガイド育成について、調査・支援を行う。※3				
			企画課					
				○市空き家バンク制度で空き家の有効活用を図るとともに、地域と行政の協働による空き家のさらなる掘り起こしを推進する。※4				

2 協和はこうありたい（行動計画）

こうありたい	だれが	いつ、何を			市役所関係課長等の見解		
	地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)			
<p>ひとが明るく集う場をつくりたい</p>  <p>▲ 息を合わせて大波ボール送り（市民体育祭）</p>  <p>▲ 75歳以上グラウンドゴルフ（迫田）</p>	<p>老人クラブ 民生委員 中俣地区振興連 垂水市漁協 海潟温泉再生会 民泊受入部会協和地区 協和小学校 協和小学校PTA 子ども会育成会 協和グラウンドゴルフ同好会 協和地区公民館 各振興会 消防分団</p>	<p>○中俣公民館で行われる月1回の老人サロンに参加する人を増やす。 ○となり近所や仲よし同士で集まって楽しく話し、お茶飲みができるようなお付き合いを広げていく。</p>			<p>※5 地域でも環境づくりに積極的な参加をお願いします。</p> <p>※6 引き続き垂水市漁協、地域と共に有効利用について協議します。</p> <p>※7 児童クラブの開設も、共働き・一人親家庭等の子育て世代にとっては、なくてはならない施設ですが、条例や補助の採択要件などいろいろな条件があるので、今後課題を整理し、検討していきたい。</p> <p>※8 災害のおそれがあり、避難の呼びかけが必要な場合は、防災行政無線などで情報を発信し、地域においても、自主防災組織などに声かけ等を行っていたり、地域と行政と連携した避難誘導に努めます。</p>		
		<p>○中俣公園を色とりどりの美しい楽園にする。 ○海潟さくら公園にもっと人が集えるよう、にぎわいのある公園づくりを進める。 ○協和を訪れる人々に、「桜島の灰は降るけど人も土地も良いところだよ」とアピールできるよう、思いやりをもってなす。</p>					
		<p>○児童クラブ開設の検討など、子どもたちの放課後等における居場所をつくる。</p>					
		<p>○外に出て、健康づくりやスポーツを行う機会を増やす。 ○高齢者が寝たきりにならないよう、ふれあいの場を設けて楽しみをつくる。 ○イベントに参加できない方々のことも考え、やさしい配慮を加えた地域づくりを行う。 ○地域行事が楽しくなるよう、もっと出席者を増やす工夫を行う。</p>					
		<p>○関係機関と連携し、高齢者の災害警戒時避難呼びかけを行う。</p>					
		市	土木課	<p>○中俣公園については、適切な維持・管理に努める。※5</p>			
			水産商工観光課	<p>○さくら公園の有効利用については、協働による支援を行う。※6</p>			
			保健福祉課	<p>○児童クラブの開設については、今後課題を整理、検討していきたい。※7</p>			
			総務課・消防本部	<p>○高齢者等に対する災害警戒時避難呼びかけについては、地域と連携して避難誘導を呼び掛け、高齢者等の安全確保に努める。※8</p>			


2 協和はこうありたい（行動計画）

こうありたい	だれが	いつ、何をする			市役所関係課長等の見解
	地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
なぎさ荘周辺から海の見える協和にしたい  ▲ 江之島と並木松	協和地区公民館 中俣地区振興連 海潟地区振興連 海潟温泉再生会	<input type="checkbox"/> なぎさ荘周辺の美しい景観を取り戻すよう、また、なぎさ荘の有効活用を望む地区の声を行政に届ける。			※9 なぎさ荘周辺については、協和地区住民はもとより市の観光振興を図るうえで大変重要な財産であると認識しており、まず環境整備について、なぎさ荘所有者や協和地区と協議を行っていきたいと考えます。 そののちに、今後の利活用についても、所有者との協議を重ねながら方向性を見出していくものと考えています。 ※10 グラウンドや体育館等は住民からの要望により利用されていますが、校舎は市役所の公文書や災害用の緊急資材等の保管場所として公務で利用しています。 学校跡地の施設利用は、施設の安全性や公文書等の安全性確保を考慮しながら、住民の意向を大事にし、地域に、市民に役立てるという方向性で進めて行く必要があると考えます。
	市 企画課	<input type="checkbox"/> なぎさ荘周辺の景勝地が再び美しい自然景観を見られる場所となるよう、所有者との協議を重ねていく。※9			
中学校跡地を有効に使いたい  ▲ 協和中学校跡地	協和地区公民館 協和グラウンドゴルフ同好会	<input type="checkbox"/> 地域に呼びかけを行いながら、ボランティアで草取りや灰取りを行い、利用価値を高める。			
	市 財政課	<input type="checkbox"/> 敷地や校舎を利用して、地区のイベント(つなひき大会等)を行う。 <input type="checkbox"/> 敷地や校舎を利用した地区のイベントについては、可能な範囲で対応する。※10			

2 協和はこうありたい（行動計画）

こうありたい	だれが	いつ、何を			市役所関係課長等の見解
	地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
<p>協和のカンパチ、農業を盛んにし、協和の「つくる力」を引き出したい</p>  <p>▲ カンパチ祭りでのつかみどり</p>	垂水市漁協 海湯温泉再生会 漁業者農業者 鹿児島きもつき農協 協和地区公民館	<input type="checkbox"/> カンパチ祭りを地区全体で盛り上げ、活気ある協和をアピールする。 <input type="checkbox"/> 水産業と農業、観光業が協力し、人々が体験できる新たなイベントをつくる。			※11 定着してまいりました「カンパチ祭り」は、市の行事でもあるとの認識をもっていますので、担当課として協力していきます。 ※12 有害鳥獣対策については、有害鳥獣捕獲対策事業補助等、耕作地等への侵入防止対策については、ワイヤーメッシュ柵や電気柵等設置の補助事業、また、降灰対策としては、ビニールハウス等施設設置等の防災営農対策事業を実施し、やりがいのもてる農業展開を支援していきます。 ※13 研修や実習についての具体的な要望や意向によって、県をはじめ関係機関への講師派遣依頼や情報の提供を図ります。また、「生涯学習出前講座」で家庭菜園等の栽培講習会も行っています。
		<input type="checkbox"/> 有害鳥獣、降灰に負けない対策を打ち、やりがいのある農業を展開する。	<input type="checkbox"/> 素人にも分かりやすい農業実習を行い、家庭菜園を充実する。	<input type="checkbox"/> 協和の海と山のモノとの合作で協和らしい料理を開発し、味わう。	
	市	水産商工観光課	<input type="checkbox"/> カンパチ祭については、協力していく。※11		
		農林課	<input type="checkbox"/> 有害鳥獣、降灰対策については、補助事業を活用し実施する。※12 <input type="checkbox"/> 農業研修や実習の開催にあたって、県をはじめ関係機関への講師派遣依頼等をお願いしていく。※13		

2 協和はこうありたい（行動計画）

こうありたい	だれが	いつ、何をする			市役所関係課長等の見解
	地域・団体名・市・県・国	前期(1～3年目)	中期(4～6年目)	後期(7～10年目)	
<p>やっぱり協和は海潟温泉！ もっと温泉に入ってもらいたい</p>  <p>▲「スポーツ灰取り」参加者</p>	<p>海潟温泉再生会 垂水市漁協 協和地区公民館</p>	<p>○観光、温泉マップ、海潟温泉の看板を作り、海潟温泉をもっとアピールする。</p> <p>○温泉の割引券配布など、校区外からの入浴客を呼ぶ工夫を行う。</p> <p>○風光明媚な土地柄、すばらしい歴史、文化、温泉を生かし、観光のまちづくりに力を入れる。</p> <p>○江之島を活かした観光のひとつとして江之島桜祭りを復活し、花見を行う。</p> <p>○「スポーツ灰取り」など、灰とともにある暮らしに楽しみを見出している海潟温泉再生会等の取組を応援する。</p> <p>○鉄道跡地と海岸線を歩いてつなぐコースをつくる。</p>	<p>○刃物砥ぎのボランティアを行う。</p>	<p>○江之島とさくら公園をつなぐ橋を架けるよう要望する。</p>	<p>※14 「温泉再生会」の方々と意見交換をし、海潟温泉復活に知恵を出していきましょう。</p> <p>※15 国立公園内である江之島を活かした観光地づくりを協議していきます。</p> <p>※16 コースの設定等を含めて、地区住民と関係課と意見交換を行っていきます。</p> <p>※17 国立公園内である江之島を活かした観光地づくりを協議していきます。</p> <p>※18 どのような方法・協力ができるのか要望・協議していきます。(水産商工観光課)</p> <p>※18 本事業の有効な方策について、協力します。具体的な方策が決定しましたら、市内外への情報発信が不可欠となりますので、効果的な周知ができるよう各種情報媒体への掲載及びマスコミに対するプレスリリース等、秘書広報係へご相談ください。(総務課)</p>
	<p>市</p> <p>水産商工観光課</p>	<p>○観光のまちづくりに力を入れ、海潟温泉をアピールすることの支援については、協議していく。※14</p> <p>○江之島を活かした観光や江之島桜まつりを復活し花見をすることに対する支援については、調査・検討していく。※15</p> <p>○鉄道跡地と海岸線を歩いてつなぐコースづくりの支援については、協議していく。※16</p> <p>○江之島とさくら公園をつなぐ橋については、調査・検討をしていく。※17</p> <p>○温泉割引券配布の方法については、協議していく。※18</p>	<p>○温泉割引券配布の方法については、広報誌をはじめとする各情報媒体を活用した配布方法の周知に協力する。※18</p>		

協和の産業、也

3 協和づくり計画の使い方

(1) 協和づくり計画の位置づけ

- 協和づくり計画は、第4次垂水市総合計画に基づき、協和地区の住民で組織した協和づくり計画策定委員会を中心に話し合ってまとめた協和地区のための計画です。
- 計画期間は平成26年度から平成35年度までの10年間とします。

(2) 計画の実行

- 協和づくり計画の行動計画を活用し、実行に移していくときには、行動計画に掲載された「だれが」、「いつ」、「何をする」に基づき、具体的な取組を考えます。
- 動く人、準備段階を含めた動く時期、動く内容、そして全体の流れを想像することで、実際に起こることや行うことをイメージしていきます。
- 計画を立てた後は、大胆に実行に移します。

(3) 行動の振りかえり

- 継続性のある計画であるために、わたしたちは毎年みんなで行動を確認します。
- 各項目がうまく進んでいるかどうか、うまく進んでいなければどうすれば良いか話し合います。
- 協和づくりの大目標である「**桜島・カンパチ・温泉の町 みんなでつくろう明るく活力ある協和**」に立ちかえり、目標を共有しましょう。
- また、新たな課題が生まれてきたときは、協和地区公民館の組織決定を経て書き加え、計画書の見直しにつなげます。
- 見直した内容や行動計画の追加など、確認の結果を市に報告します。

やっている内容を
チェックしよう！



▲ 第3回策定委員会のように(平成26年7月12日)

〈資料1〉 策定委員会

(1) 協和づくり計画策定委員会規程

(設置)

第1条 第4次垂水市総合計画基本構想に基づき、協和地区における地域振興計画を策定するため、協和づくり計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、協和づくり計画策定のための企画、調整及び素案・原案策定に関することについて処理する。

(組織)

- 第3条 委員会は委員長、副委員長並びに議長、副議長及び委員をもって組織する。
- 2 委員長は地区公民館長を、副委員長は公民館主事ををもって充てる。
 - 3 議長及び副議長は、委員の中から選出する。
 - 4 委員は、協和地区公民館の運営委員、協和地区地域担当職員リーダー及びその他委員長が特に選任する者をもって充てる。
 - 5 委員は、協和地区公民館長が委嘱するものとする。

(委員長等の職務)

- 第4条 委員長は、委員会を代表し調整役として委員会を総理する。
- 2 副委員長は、委員長に事故あるとき又は欠けたときに、その職務を代理する。
 - 3 議長は、会議の議長として会議を掌理する。
 - 4 副議長は、議長に事故あるとき又は欠けたときに、その職務を代理する。

(委員会の招集等)

- 第5条 委員会は、委員長が必要に応じ招集する。
- 2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、協和地区公民館に置く。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規程は、平成26年5月30日から施行する。

(2) 協和づくり計画策定委員会名簿

	委員氏名	職名	各種団体等役職名
1	川畑 三郎	委員長	館長、消防分団長、地区市会議員
2	瀬角 康平	副委員長	主事
3	後迫 洋	議長	元垂水市漁協参事
4	坪内 進作	副議長	副館長、福祉厚生部長、中俣公民館長
5	川尻 達志	委員	地区市会議員
6	紺屋 義久	委員	中俣地区振興会連合会長
7	岩切 隆美	委員	海潟地区振興会連合会長、垂水市漁協組合長
8	大保 秀樹	委員	協和小学校長
9	福浦 猛典	委員	協和小学校PTA会長
10	中馬 清文	委員	前垂水市漁協組合長
11	三園 秀幸	委員	体育保健部長
12	宮城 猛男	委員	文化教養部長
13	野村 継治	委員	総務部長、教育委員
14	篠原 美幸	委員	育成会会長
15	和田 勇二	委員	垂水市漁協青年部長
16	瀬脇 勉	委員	市青少年育成指導委員
17	関 裕次郎	委員	警察少年補導委員
18	堀之内 順	委員	警察少年補導委員
19	川井田 大典	委員	地区体育普及員
20	篠原 カツ子	委員	民生委員代表
21	瀬角 健一郎	委員	民生委員代表
22	藏ヶ崎 純夫	委員	監事
23	佐野 弘子	委員	老人クラブ海潟代表
24	瀬角 龍平	委員	市地域担当職員
25	平野 日出夫	委員	垂水市漁協参事
26	深見 政則	委員	ほほえみ代表
27	川崎 喜久	委員	土地改良区総代
28	井之上 秋秀	委員	元国土交通省
29	和田 将史	委員	海潟温泉再生会
30	瀬脇 とも子	委員	垂水市漁協女性部長
31	瀬角 初美	委員	女性農業経営士

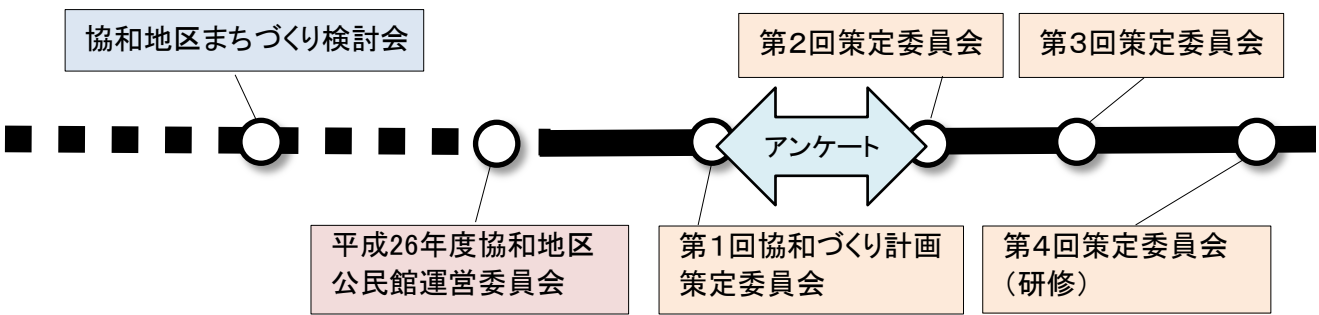
(3) 策定経過

主な取組	日付	会議の名称	参加者数
・専門家に学び、計画づくりに向けて意見交換	H26/3/27	協和地区まちづくり検討会 (鹿児島大学公開講座)	46名
・協和づくり計画の策定に取り組む意思決定	H26/4/22	平成26年度協和地区公民館運営委員会	34名
・規程の決定 ・議長・副議長の選出 ・アンケート実施の決定	H26/5/30	第1回協和づくり計画策定委員会	25名
・アンケート結果の報告 ・「こうありたい」について、A・B2班に分かれてグループ協議	H26/6/30	第2回策定委員会	23名
・「こうありたい」のグループ協議 ・大目標の決定	H26/7/12	第3回策定委員会	23名
・関係機関の連携でまちづくりを推進している取組を学ぶ	H26/7/31	第4回策定委員会 先進地調査研修(宮崎県川南町)	11名
・研修報告 ・グループ協議による行動計画づくり	H26/8/19	第5回策定委員会	23名
・グループ協議による行動計画づくり	H26/9/2	第6回策定委員会	20名
・市関係課長等も同席した話し合いで、行動計画案を討議	H26/9/25	第7回策定委員会	40名
・計画書原案の仕上げ作業	H26/10/28	第8回策定委員会	18名
・計画書の承認・決定	H26/11/11	第9回策定委員会	31名
・計画の活用策等について学ぶ	H26/12/16	報告会(鹿児島大学公開講座)	名

(4) 写真でたどるあしあと



「毎回20名ほどの委員が出席され、意見やアイデアを出し合いました。」

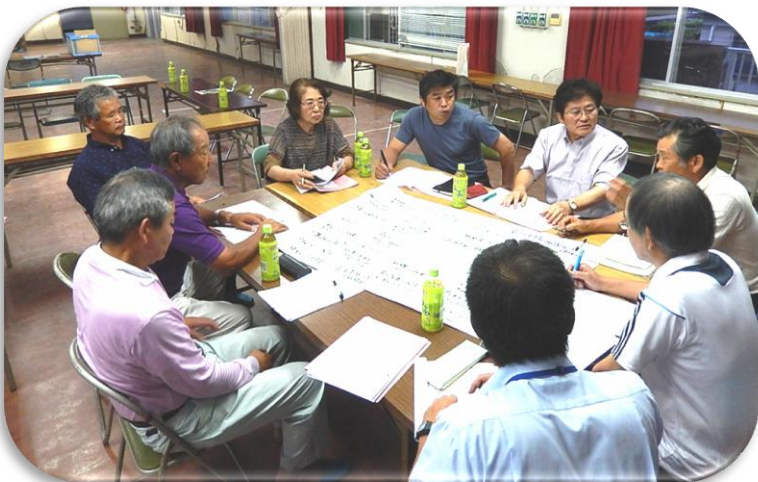
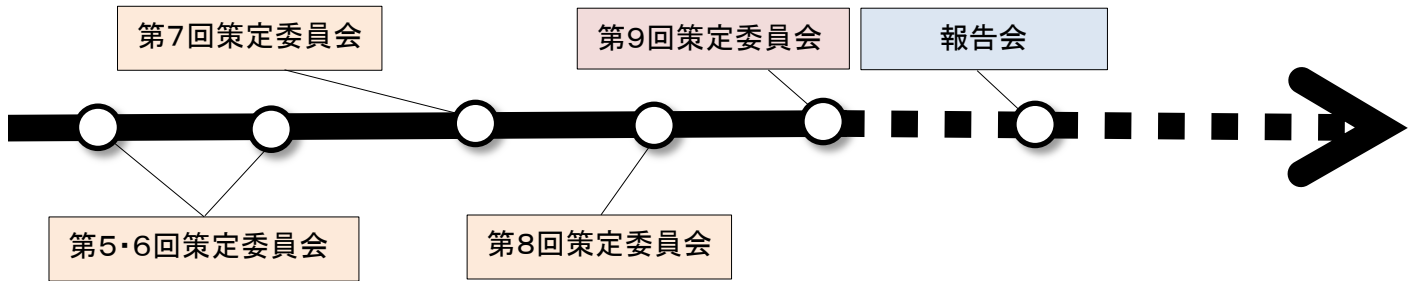


研修で訪れた宮崎県川南町でも、熱い議論が交わされました。





班分けによる話し合いも行いました。



班で出された意見を発表。



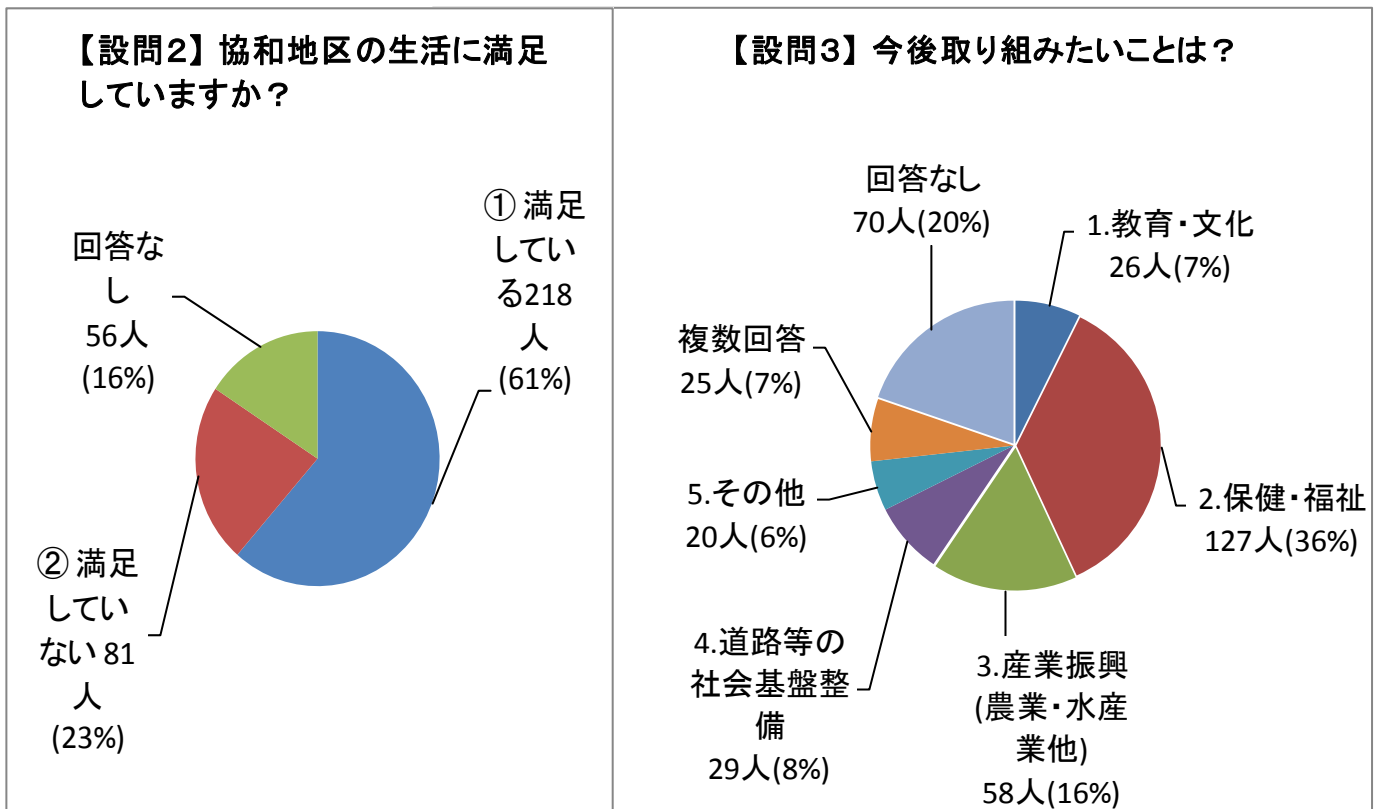
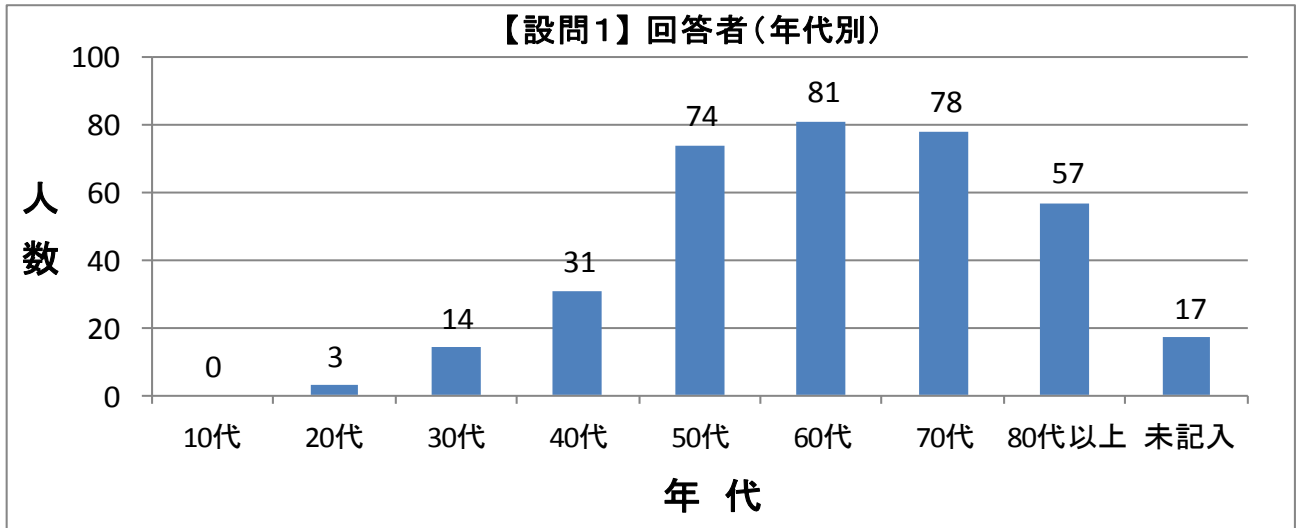
②「協和づくり計画」アンケート結果

総依頼数：728

回答数：355

回答率：48.8%

回答者性別 男性：120人(33.8%) 女性：202人(56.9%)
未記入：33人(9.3%)



【設問3】今後取り組みたいことの「その他」の回答

番号	「その他」の回答
1	協和中学校を開放する事
2	少子化対策
3	よくして下さい
4	育つ子供を大事に育てて下さい
5	健康促進
6	観光
7	市道の灰を頻繁にしてもらいたい
8	スポーツなど
9	人口増加につながる事
10	家庭菜園
11	なぎさ荘の周辺を整備、草木が生い茂っている
12	農導水路のフタの取り付け
13	市道の整備（下水路ふた）
14	<p>※先ず最初に 今回立ち上げられました「協和づくり計画」に大いに賛同を致します。遅きに失った感さえ覚えます。</p> <p>先ず提示されました①～④の設問に回答致す前に、私共の地域に絶大な負の力を朝な夕なに及ぼしております活火山「桜島」の全般について述べないと、思考が前に行かないと思慮致しております。</p> <p>季節では毎日のように降り続きます火山灰、噴火爆発と。 この負の現実に加えて、各種メディアによるニュースが拡大鏡の役割をしております。</p> <p>よって小生が、降灰の常襲地域と認識しております。</p> <p>鹿屋市、国分、加治木、鹿児島市湾岸地域に行きますと折々に、小生に対しましての挨拶の中で、火山灰の「見舞」の言葉を掛けられる事に驚き、そして胸が痛みます。</p> <p>これ程に垂水地域への火山灰のイメージが強く浸透しているのか?!と。 そこで提案、公共全体の所有のマスメディアで有る事は百も承知は致しておりますが、降灰の向かう方角について現状では細く地域名、自治体名称を挙げられております。地域住民及び財産への危険や大きな被害が及ぶと予測される場合は勿論除外です。</p> <p>火山灰の常襲地の各自治体、及び住民を巻き込んでの他の方法でのニュースを伝えるよう提案、要望が出来ないものか？</p> <p>農畜産業分野に就いて ※農畜産業分野で後継者不足は当地域でも喫緊の課題である事は地域の皆さん方が共有されております。加えて嫁さんの来手が無い（少ない）。長期的視野で考えますと、嫁さん不足の方が根本的、根源的な原因を孕んでいるのかも？と思慮をします。</p> <p>しかし残念ながらこの課題については、お偉方がおられます。お任せする他ありません。小生の非力な思慮力では課題が大き過ぎます。</p>

	<p>※水産に関しましては、小生はこの先燭光を見ます。魚価に関しましてはより一層の附加価値への取り組み、そして魚食拡大への努力で先々大きな展望が開けると確信しております。</p> <p>※雇用 ※経済効果大</p>
--	---

【設問4】これから協和でやってみたいことは？

<p>設問4・5の回答について、以下の5種類に分類しています。</p> <p>① 暮らしや自然の環境</p> <p>② ひと・交流</p> <p>③ 出</p> <p>④ 協和の産業</p> <p>⑤ その他</p>
--

番号	① 暮らしや自然の環境
1	協和中学校の校庭の整備をして桜の木を植えて卒業生の祝い事（還暦式）に活用してみたらどうですか？折角閉校式に石碑も建てたのだから。※桜で花見なども協和のメインにしてみたら
2	協和中廃校の利用
3	廃校になった協和中学校の校庭、テニスコートの整備、開放（一般市民が自由にスポーツや散歩、休憩等できるように）
4	中俣も海潟も良くなりますように 中俣公園をモットモット楽園に、周囲に色とりどり美しい公園へお願いします
5	中学校を利用してほしい
6	①学校の跡地の利用（高齢者用、その他宿泊研修施設） ②なぎさ荘の再開発 ③江之島利用
7	花や野菜の栽培
8	空き家が多くなっているので休みとかいろんな事で帰省する時に利用できる宿泊室として利用できるような方法
9	江之島を生かした観光
10	生まれてから今まで海潟に生まれ育ち生きてきました。金持ちでもなく明日の生活にも困るとい生活でもないし鍵もかけずに外出してもいい所です。事故が多いですが特に気を付けなければいけないという人もいません。 住みやすい所です。大好きな協和、地図にもものっていないです。だけど本当に大好きな協和です。
11	桜公園などの利用も考えていけたらいいと思います
12	菅原神社の掃除の件ですが、どうにかなりませんか
13	荒地となっている農地を解消し景観をよくする為、花一杯の町にしたい
14	江之島をもう少し人々が集まれるところとして、渡し船で桜まつり（昔を思い出して）などを復活しては
15	脇登海岸を早くきれいにしてもらいたいです

番号	② ひと・交流
1	昔やっていた集まって皆で楽しく話しお茶飲みできるような集まり
2	お茶飲み会（共同コミュニケーション）
3	年に1回（七夕の日）に協和中グラウンドを利用して地域全員参加の七夕会。同じく年に1回（十五夜の日）に協和中グラウンドを利用して中俣地区、海潟地区に別れて綱引き大会
4	年令が85才なのでこれといって特にありませんが福祉が充実している助けあいの協和になれば良いと思います。
5	地域における行事等の連携による存続活動
6	何をやるにしても共同参加
7	現在子供がいるのですが、協和地区にも子育て支援センターの様な小さい子供でも遊べる場所があればと思います。使わない体育館等を使って。
8	協和が1つにまとまる行事が何か一つあったらいい
9	年齢的に何も出来ないので高齢者学級とかイキイキサロン等に少しでも長く出られるように健康維持を心がける事です。
10	協和高齢者学級に月1回出席しているので良い事だと思います。中俣公民館でも月1回老人いきいきサロンも行きます。楽しいです。
11	人間関係を豊かにしたいです
12	運動会の事について、年よりなので協和中学校でもたまにはやってほしいです。スポーツ大好きです。
13	10年続くコミュニティの形成
14	健康づくり 今まで育ててくれた地域への感謝のボランティア活動
15	みんなと話の付き合いをしたいです
16	串良町上小原の柳谷町内会の取組事項の中で協和校区で出来る事はないか真似したい、参考にしたい取り組みだ。
17	地域と子供との交流。親子で参加できることが望ましい。敬老会など良いのでは？1、2年だけでなく全学年でも良いと思う。すもう（十五夜等）も全員参加で。
18	高齢者が年々多くなります。一日遠足や月例会とふれあいの場を設けて寝たきりにならないよう楽しみを作ってあげたらどうでしょうか？
19	各振興会でのレクリエーションなどの活動などやっていけたらいいと思います
20	お祭、例えば六月灯、綱引き、校区運動会等皆が出席すればもっと楽しくなれると思う
21	皆で出来る行事がたまにほしいと思う事があります
22	今一番不安に思っている事は年老いてからの生活です。今は車を運転していますが病院に行くにも市内への交通の不便さです。
23	外に出てお会いすると親しみをこめて言葉をかけて下さるのでとても明るい気持ちになります。出来ることなら私が受けた思いを接する人にお返し出来たらと思います。一人暮らしの私は人とお話しすることが楽しみです。夜眠りに就く前、今日お会い

	した人達の笑顔を思い浮かべることによって明日の希望が湧きます。協和は暖かい所です。
24	月2回位レクリエーション(運動)をしてほしいです
25	菅原神社をもう一度みなおして昔みたいににがやかな祭りにしたいです
26	郷土(昔ながらのもの大切に) 運動会(老人向けもあって欲しい)
27	◎人に「やさしい」住みやすい街にする 私は協和に来て20年になりますが、協和の人は「他人に厳しく、自分に甘い」というのが私の協和人に対する評価です。 人口が減り、中学校がなくなり、小学校の存在も危ない中、みんな昔の栄光だけを頼りにしている。 私の子供は、「垂水は好きだけど、協和は嫌い」と言って巣立ちました。 「みなさんの子供、孫は喜んで協和に住みたい、帰ってきたいと言っていますか。」 このような所に誰が寄り付くのでしょうか。 今はやりの言葉でいえば「もっと思いやりをもって、絆を大切にする」街にするべきではないでしょうか。 そして、桜島の灰は降るけど「人も土地もいいところだよ」をアピールできれば、自然と人は集まるのではないのでしょうか。
番号	③ 曲
1	①温泉ランド(なぎさ荘跡地の開発) ②協和中学校跡地の有効利用 ・素宿施設(観光、温泉マップを利用して協和をアピールe t c.) ③UターンIターンの促進
2	温泉や景観を生かした町づくり
3	海潟温泉、昔のにぎやかだった活力をもう1度考えて観光に力を入れる(協和校区に温泉がある事をもっと外部に宣伝する)
4	温泉を生かす事
5	協和にはすばらしい歴史や文化、温泉がある。これらを生かした町づくりができたらと思う
6	温泉、観光地づくり
番号	④ 協和の産業
1	農業、漁業中心とした観光のアピール
2	協和の特色は海と山が近く、農業と漁業が盛んなことであるため、それを生かした産業祭のようなイベントの開催
3	中俣、海潟共に農業、水産業も充実出来ますようお願いします
4	水産業を基にして人々が体験できるもの 観光とかも降灰があるからとあきらめずに、降灰を利用した産業もあるのかも
5	協和地区は観光に向いていると思う。 ただし、漁協が出来たりしているのでどうかと思うけど。イベントをやったりしますが、つり堀等を週一のわりあいやり、道の駅からの観光バスがくるようにしたら

6	野生動物（サル、イノシシ）駆除して農業をやりがいのある仕事にしていきたい
7	一言で言うと風光明媚。まず観光外に何がある。最近では漁業者発展に伴い水産業だけのそれも彼等の努力には頭の下がる思いもあり時代の発展故か位置的に取り残されている部分、それは岩崎産業のなぎさ荘跡からその周辺の老衰状態、墓場の周辺と言えば過言でしょうか。吾もまた散策していて何時も思うことである。なぎさ荘をなんとか明るい施設にすれば何とか見通しもあろう。 海潟中心地と言えば語弊があろうが桜島、江之島、天神山で昔の協和は誇れていたと思う。そして海潟温泉、他の地域のお偉いさんに話せば何とかなるような気がする。
8	産業の発展、後継者すなわち若者の増加、若い人、子供が増加
9	降灰に負けない作物対策
10	若い人の働く場所を作ってほしい 空いている田畑の活用
11	カンパチ祭と一緒に大きな祭り（イベント）
12	カンパチ等の加工品の開発と販売
13	・校区民が今ひとつのこの協和地区の文化財。修学旅行生や観光客に対しての文化財ボランティアガイドの育成 ・協和地区特産品（農、水産）の定期的料理教室の開講（地区民、観光客）
14	桜島が近いこと、自然があること、農水産業があること、人を呼ぶ環境作りをしたいです。
15	火山灰との共存（灰を加工して商品を作るとか）
番号	⑤ その他
1	ふつうに年を取りたい
2	福祉、農業
3	昔の協和みたいに。どこの地域でも同じだろうと思いますが。協力致します。
4	皆共に仲良く楽しく行く事と思います
5	自分の事でいっぱいであり1年先を考えられない
6	協和の特色を生かしてできる事は別はない
7	自分自身、高齢者になった為、協力は不足がちです
8	若い人たちで考えて下さい
9	リーダーシップがないのでやってみたい事は浮かびません。何かやるのであれば協力はできると思います。
10	高齢なので自分の事だけで精一杯です
11	教育、文化
12	元気で働いているので特にやってみたい事に対して今の所ありません
13	協和公民館長様 風のときいつも有難う
14	今から5年位まではいいと思うけど10年もと言ったら先の事はわからない、別はない
15	自分の健康

16	50代夫婦の二人暮らしですので二人で健康に努めながら60を過ぎるまできちんと職業人として働けることでしょうか？まずは納税の義務とやがて頂ける年金の為にきちんと納めさせて頂けたらと思います。
----	--

【設問5】ご意見・アイデアなど

番号	① 暮らしや自然の環境
1	ゴミの処理が簡単に出来るよう近場に集積場所が必要では？
2	山、川、海絶景の地にある所を利用して海岸線の公園と山から望められる公園が作られればと思う。
3	協和の住みよい集落にしてほしい
4	中学校跡地を公共的に使えるようにできないものか
5	なぎさ荘の藪が協和の景観を崩している。海潟も中俣も綺麗になりました。なぎさ荘だけが菅原神社まで藪の中にした感じ。鳥居が鳴くようだ。元の協和が懐かしい。キャンプがあり花見船が往来した江之島、人があふれていたなあ。時の流れかいつこも同じかあきらめか。みんながそんな感じじゃないかな？行く末短し吾もまた子孫に負を残すか。 誰か協和再生の勇士はいないのか、期待して止まぬ。祈る、協和の発展を！皆んな発憤されよ！年寄りの独り言か。
6	地域高齢化に歯止めがかからない以上、空き家となった中学校を若い芸術家に貸し出し協和校区への移住を条件にする。他の地域では取り組みが始まっている事例ですが地域の活性化に役立つ事例だと思っています。
7	公園を増やしてほしい
8	江之島に桜の木を植えたらどうですか。 協和中学校の有効利用は。
9	なぎさ荘の跡地を利用できないのでしょうか？温泉プールができるくらいあるのでは？
10	旧協和中跡地を公民館にして催しを増やしてみたら？
11	・アパートが少なく子供達が市内（中央）に行ってしまう ・なぎさ荘の周辺をどうにかして昔のように海の見える町にしてほしい（安全面も不安）
12	学校に花の苗を植える
13	菅原神社の清掃、なぎさ荘の跡地等（市に相談）きれいにしてからきれいな活気ある協和づくりを始めてほしいです
14	中学校の跡地を地区で使えるように出来ないものかと思っています。 あれだけの敷地を遊ばせる手はないと思います。水之上の三和センターのような活用法はできないのでしょうか。
15	桜島の灰がすごいので道路だけでなく細い道の灰も取ってほしい
16	空き家がたくさんありますから持ち主と話し合っ安く借してあげたらと思います。子どもさんがいる方など安くして、人も増えると思います。

17	協和中学校の校舎はいつまでそのままなのか？ 私達には先が短いので老人ホームとか給食室とか校区の人達で何か利用できないのでしょうか。誰でも立ち寄りカフェとか宿泊所とか元気な方達が気軽に遊べる教室があつて茶話会とか出来る事を楽しみに期待しております。
18	中学校の校舎と老人ホームや老人の憩いの場などに利用できないのでしょうか
19	なぎさ荘跡地の有効活用をしてほしい（諸事情によりきびしいと思うが）
20	高齢化する限界集落にならないように市が考えてください。工場を呼ぶなど
21	今、県外で生活している子供らが孫を連れて帰って来れる様な就労できる場所があればなあと思います。賃金の安い田舎暮らしはお嫁さんには嫌がられますよね！
番号	② ひと・交流
1	となり近所への声かけ、気くばり、うすれてきていると思うので年寄りが多くなってくるので、これから大切な事だと思うので気つける。
2	中学校がなくなり自然と小学校も子供達が減少しました。老人だけになる事で運動会もさびしくなりました。保育園、小学校、校区の運動会とやはり合同でする事が活気が出てきていいように思います。是非検討してみてください。
3	・高齢化、少子化への対策が必要。高齢者への対処としては定期的に家訪問（回診）、少子化対処としては婚活などへの積極的支援など…。 また、若い人々に地域の管理、役職をまかせていくことも大事ではないでしょうか。（若い人を地域に留められる） ・校区運動会に参加する人々が年々少なくなっているように感じる。（対処として種目や賞品変更など） ・交通機関が少なく不便。高齢者が増加している中でこの状況は由々しき問題であると思われる。
4	子供を大事に育てて下さい
5	公民館を中心とした子どもから高齢者までが集える行事などの検討。 様々な取り組みを出していただき住民がいきいきと生活できる協和づくりが出来たら良いと思います。
6	子供も各集落減少しているので校区の運動会を他の地区みたいに小学校と一緒にしたらどうですか？
7	協和校区の運動会にて子供が少なくなって参加者が少ないところも有るので小学校の運動会と一緒にしてほしいです。そうすると親もそれとなく参加して来れる人がいると思います。
8	今若い方々が頑張ってるようで心強く思っていますが、結婚して協和をはなれる方もおられるのでやっぱり淋しいです。もっと若い方が増えたらいいのにと考えてます。 役に立つ意見も書けずすみません。
9	協和づくりはみんなあまり協力する人達が少ない。特に水産関係の人達は。
10	話し合いを出来る場を開き明るい協和地区を作りたいと思います。

11	小学生の子供を持つ親として、児童数の減少はとても心が痛みます。これからもっと地域とのかかわりを密にしていく必要があると思っています。奉仕作業などもP 戸数も少なく困難です。そしてなんととっても運動会。校区の運動会と合同で行う ともっと盛りあがるのではないかと考えています。
12	市全体で考える事、協和の公民館活動でやる事ありますがすぐ出来る事は公民館で 週1回地産地消で魚や野菜、花等の販売をしたりリサイクル等をしたり…。まだま だいっぱいありますよ。温泉をつかって高齢者のつどいとか。なにしろ校区民全体 で取組みしてほしい。
13	子供たちも老人も共に海の浜で遊べる事。共に遊べる事。
14	若い人は子育て、仕事と忙しいので高齢者の方々も年だからと言わずに地区に対し て積極的に色々な事に参加してほしいです。
15	協和づくりに参加する人数を増やす
16	やねだんみたいなやりがいのあるグループを作ってやってみたい
17	これからの協和をになう子ども育成を地域ぐるみでサポートしていく
18	みなさんと会話をして楽しく暮らしたいです
19	スポーツなどで活気づいてほしい。 若い子が多く住んでいると思います。小、中はもちろん高や青年の方など若い人た ちが多くいる地区だと思う。
20	街灯をつけてほしい
21	小学校との交流の再検討。文化祭など。校区の運動会と小学校の運動会の合併など どうでしょうか。
22	子供達が登下校などの時よくあいさつしている様です。良い事だと思います。つづ けてほしいです。
23	協和の歴史、遺跡（文化財）など協和に関する事を小学校で学習できるようにな れば子供たちにとってもいいのでは？また、学習したことを家庭に伝えればコミュ ニケーションにもつながると思います。私自身も知らないことも多いと思います。 知りたいです。
24	協和校区も小学校と合同で運動会はやったほうがいいと思う。
25	垂水漁協近辺を借りて夏祭り（花火大会、出店、バーベキュー）協和校区だけで するのでもいいかなと思う。その為には皆が出席できるように企画してほしい
26	集落ごとに週1回位のお茶会場があれば楽しいのでは
27	・校区の運動会と小学校の運動会を合同です。 ・文化祭ですもう大会があるので十五夜では綱引き（中俣 vs 海潟）だけにしては。 子どもの減少ですもう大会も人数確保も大変だと耳にしました。子どもの減少の中、 時代に合わせて変化するのも…。 どうやって行事をつないでいくのか、一考も大事では。
28	協和地区の皆さん方が気持ちよくあいさつしていく事が一番だと思います

29	<p>ドライバーにやさしい協和校区民？</p> <p>例えばウイークデーの一日、指定曜日の朝に集落ごとにそれなりの旗（「お気をつけて／協和校区」とか「ドライバーにやさしい協和校区」とか）を立ててドライバーにおじぎしたり、手を振るなどのあいさつをする。この珍光景にドライバーの笑み（安全運転）を引き出すと同時に高齢者に外に出て役に立っていると楽しみも生まれるのでは。一見バカバカしくもあるが楽しむ話題になればいい。</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の文化祭もあるが人が集まらないのもっといろいろな方に知ってもらいたい ・小学校では防災にも力を入れているのでなにかできれば
31	昔からの行事毎を海潟、中俣合同で賑やかに行うことは無理なことでしょうか？
32	子供も少ないし年寄りだけになって今の生活に満足はしているけどいつまでも協和地区にいるか
33	校区の運動会は人が少なくて参加者が不足しています。苦勞する面が多い。
34	市内各地区には自治公民館がありますが、海潟地区にはありません。色々な組織の会合や小人数が集まって話合いができないので、自治公民館がほしいです。
番号	③ ㊦
1	<p>以前テレビで温泉街の復活みたいなシーンがありましたが、その後の進歩状況がわかりません。やっぱり協和は「フロ」でしょう！</p> <p>校区外から「ちょっとフロへ」みたいな気分で（魚つりやハイキング、観光、つかれた後に）</p> <p>—色々思いはありますが—</p>
2	<p>海潟再生会がしている温泉とカンパチを生かし、花やインゲン、キヌサヤ等の農産物、江之島、桜島とすごくいい景色のある協和なのに児童が少ないのが残念です。公民館も古くなってきたし、夏まつりもないです。消防団も若い人達が少なく、出初式も団員が来ないと聞きます。</p> <p>これからは若い人達にまかせて協力していければと！</p>
番号	④ 協和の産業
1	“かんぱち祭り”を協和地区“産業まつり”として名称を変えて水産はもちろん農産物の販売する
2	<p>協和だけで考えると協和の道の駅、農業、水産を生かせるのでは？牛根までは車が必要な為、地元の方が作った物を持ち込める店などどうでしょうか？牛根の道の駅は決まった人だけの持ち込みの様な気がします。</p> <p>高齢の方でお菓子作り、だんご作り上手な方々はたくさんおられるのにもったいないと思います。</p>
3	協和地区に道の駅みたいな建物を作って欲しい。漁協や農業があるから。
4	地域ボランティアにより法人化（NPO）を設立し地域の活性化（水産、農業、観光、産業）等の育成、協力、行政との橋渡し。高齢者を仕事への取り組み、協力等。
5	協和での朝市
6	農業に対して素人でも分かりやすい実演の行えるコミュニティ等があれば参加してみたい

7	春は漁協横の桜公園で桜まつりでもしたらどうでしょう。
8	農業しています。ブタの糞を流して農業できない
9	観光業と協力できるものは何かないのでしょうか
10	物産展など地域で作られているものを使って（インゲン、カンパチ）
11	<p>◎農業・漁業をもっと盛んにする。「協和ブランドを作る。」</p> <p>私はサラリーマンですが、この仕事は社長でない限り年齢的な制約があります。しかし、農業・漁業は周りの環境があれば自分の体力にあわせていつまでもできます。桜島の灰が降り大変ですが、「桜島の灰にも負けずに育った野菜、魚」ですよをもっとアピールすべきだと思います。</p> <p>それから、農協・漁協をもっと活用すべきだと思います。</p> <p>私のまわりにもよく農協・漁協の悪口を言う人がいますが、そうかなと思うことがあります。</p> <p>例えば、肥料・農薬代を考へても農協が適正な価格を出しているから、業者の人も下手な価格を出せない。インゲンの価格についても、農協が適正な価格を出しているから、業者の人は下手な価格を出せないと思います。</p> <p>農協がなかったら、協和のインゲン・キヌサヤは業者の皆さんに買ったたかれて当の昔になくなっていたと思います。</p> <p>「協和ブランド」を作るために行政も含め関係機関と話し合いをするべきだと思います。</p>
番号	⑤ その他
1	協和地区を皆で良くして行きますように願うだけです。
2	協力しますのでよろしくご指示くださいませ
3	もう年ですのであまり考えられません。みなさんとの協力はして行きます。
4	あんまり分かりませんので上役の方々に良い協和になってほしいです。協力します。
5	毎日が精いっぱい良いアイデアが出てきません
6	<p>もし自分の体に何かがあった場合の時を今から考えることが大切でしょう。</p> <p>近くに長男はいますが、時と場合には今から心配です。現在も徳州会病院でお薬とかお世話になっております。</p>
7	<p>人口減その他</p> <p>この点は当市、当地域に限らず国全体での課題でもあります。言う迄も無く。</p> <p>先に発表されました県の試算では、県内自治体の中での人口減少率の多さが当市は5位に入っております。また、鹿児島県気象台の平成25年度内に於ける火山灰の降灰量の多さが、桜島全域の次に海潟地区でした。</p> <p>当市及び、協和地区の将来への思いをいたします時に残念ながら多くの難題が横たわっているようで、この度のご提案への回答の意志が鈍ります。</p> <p>現状のままでは先行き地域・集落の消滅さえ頭に浮かんで参ります。他方、先の国の試算で全国900自治体が消滅の危機の虞れありとなっております。勿論、数拾年先の事ではあります。</p> <p>ついでに今一つ、TPP交渉会議は進行中ではありますが、貿易の拡大傾向は世界の趨勢でしょう。勿論ここでは「物産部門」での話です。10年後位では当市への影響も及んでいるでありましょう。</p> <p>以上での難問題を胸にしっかりと刻んだ上で、難課題へと取り組まねば、絵空事・空論の繰り返しに終わる懸念がありましょう。更には役所任せ、政治家任せでなく地域住民参加で取り組まれて下さい。</p>

〈資料2〉 協和の歩み

(1) 沿革

安永8年(1779年)10月1日 (旧暦)	桜島大爆発(新島など出現)、安永10年(1781年)菅原神社に【桜島焼亡塔】が建つ。
明治11年(1878年)1月20日	中俣、海潟両学舎を合併し、協和小学校設立(校名は「協力和合」の意)。校地は海潟1番地
大正3年(1914年)1月12日	桜島大爆発(流れ出た溶岩で大隅半島と地続きに)海潟、中俣に大量の降灰
昭和30年(1955年)1月10日	旧垂水町、新城村、牛根村を合併し新たに「垂水町」となる。
昭和33年(1958年)10月1日	垂水市市制施行
昭和39年(1964年)3月	協和小学校、協和中学校が現在地に移転完了
昭和47年(1972年)9月9日	国鉄大隅線開通営業開始(海潟温泉駅)
昭和48年(1973年)3月25日	協和地区公民館完成
昭和53年(1978年)1月20日	協和小学校創立100周年記念事業
昭和62年(1987年)3月14日	国鉄大隅線廃止
平成21年(2009年)4月6~8日	第1回垂水カンパチ祭り(海潟漁港)
平成22年(2010年)3月14日	協和中学校閉校記念式典

(2) 地勢と歴史

協和地区は海潟と中俣の2つの大字の地域で構成され、協和小学校の校歌に「みどりにはえる江ノ島のながめさやかに青い海」とあるように、協和地区は古来より海に沿った風光明媚な土地柄で、北は桜島口の戸柱神社から南は荒崎パーキングまでの国道220号に沿って約6キロメートルにわたり海潟・中俣の家並みが続いています。この地域に人々が住みついたのは一番古い資料としては、昭和37年(1962年)7月に協和小学校校庭東北隅から縄文式土器及び遺跡が発見された記録が残っています。併せて打製石器類や土師器、須恵器、獣骨なども発見されています。このことから数千年前からこの地域に人々の生活が営まれていたことがうかが



▲ 福岡原(マゼンハイ)からの眺め

えます。崎山集落の山手では、貝の化石が掘り出されていましたが、国鉄大隅線の建設に伴って今では線路になっています。ここは海底が隆起し陸地になったもので、当時生息していた貝がそのまま化石となったもので、海潟の名はこの貝形から出たものと言われています。

垂水の名が記録に現れるのは保安元年（1120年）宇佐八幡宮から藤原上総介舜清（ふじわら かずさのすけしゅんぜい）が垂水城（元垂水の荒崎城）に下向してからです。寿永4年（1185年）壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平家の落人は九州の各地に逃れていきますが、中俣の浦谷集落は、落人の里としての言い伝えや、落人の墓が残されています。その後、この協和の地域は、12世紀末に中俣氏、14世紀末に石井氏の支配が始まりますが、海潟、中俣もひっくるめて垂水の名称を冠せられるようになったのは、伊地知氏等が支配してからです。（天文5年【1536年】8代重武が下大隅垂水を知行する）なお、海潟の菅原神社は、学問の神様、菅原道真を祀ってありますが、伊地知氏の勧請と言われています。また海潟漁港の南、旧なぎさ荘の跡地には、後に関白となる近衛信輔（後に信尹）が腰かけて江之島（当時は、弁天島）を眺めたと言われる「公卿石」があります。近衛信輔は公家でありながら、朝鮮の役に出陣しようとしたため、後陽成天皇の勅勘を蒙り、文禄3年（1594年）坊津に流されますが、途中この海潟に約1週間逗留した記録が残されています。この記録には、配流の近衛信輔一行を福山まで出迎えに行った中に垂水島津家第2代となる島津以久の名前も記されています。

藩政時代に入り、慶長4年（1598年）初代忠将の所領となってから明治2年（1869年）まで協和の地も垂水島津家16代の支配が続きました。

（3）桜島の大爆発

協和小学校、協和中学校の校歌にも歌われている桜島は、有史以前から大きな爆発を起こし、そのたびに流れ出た熔岩や降り積もる火山灰は、周辺の人々に多大な被害を及ぼしてきましたが、特に桜島とは目と鼻の距離に位置する協和地区は桜島の活動と無関係ではありえません。そのうち、大爆発の大きなものは、安永8年（1779年）の大爆発、大正3年（1914年）の大爆発が特筆されます。安永の大爆発については垂水島津家の家臣、伊地知季虔（いじちすえかた）が著した「桜島燃記」に海潟周辺、特に小浜集落の被害の様子や復旧に向かう人々の奮闘の様子が記されています。さらに、噴火などで亡くなった人々の霊を弔って建てられた石碑がいまも菅原神社の境内に残されています。



▲ 安永の大爆発を伝える石碑(菅原神社内)

大正の大噴火による大量の溶岩流は、桜島を大隅半島と地続きにしまいました。当時の噴火前後のことは、様々な記録や写真が残されており、噴火当時のすさまじさをいまに感じさせてくれます。この時、桜島側の瀬戸村や脇村などの人々を救い出すために、落下してくる噴石や降灰、軽石の海へ決死の覚悟で船をこぎ出し、

何度も桜島に向かった和田畷太郎、川畑畷太郎、坪内八次郎など協和の先人たちの名前も忘れてはなりません。

桜島は今も間断なく活発に活動が続けており、噴火による火山灰の多くが北西風に乗って、時にはドカ灰となって海潟・中俣付近の住民の生活や農作物などに大きな影響を及ぼしています。

(4) 漁業

昔から海潟や中俣には浦屋敷があり、一本釣りや地引網漁など小規模の漁業が営まれ、近代に入るとシビの定置網漁業が盛んになりました。しかし大正3年の桜島大爆発によって、瀬戸海峡が大隅半島と地続きになってから、漁業の在り方も大きく変わりました。この頃から湾内で取れるカタクチイワシを生簀に生かしておき、薩摩半島の枕崎方面からやってくるカツオ漁船に販売するようになりました。この頃、漁業振興に力を尽くした先人には、前園助次郎、岩切藤二、岩元浅吉らの名前が挙げられます。

太平洋戦争の激しくなる前まで海潟は空前の活況を呈し、カタクチイワシを買い付けたカツオ漁船の乗組員たちは、海潟温泉街に繰り出し、海潟の町は甚だ賑やかでした。



▲ 海潟漁港



▲ 餌やり体験に向かう教育旅行生

戦前戦後にかけて漁業者の組織づくりが進められていましたが、漁業近代化に尽力したのが深見休作です。昭和24年2月1日垂水漁業協同組合が発足し、初代組合長に就任しましたが、この頃からカタクチイワシの漁獲高が次第に減退したため、真珠養殖も試みられたこともあります。昭和37年にはハマチ養殖事業への転換が始まり、40年代にはいってからは海潟のハマチ養殖漁業は黄金時代を迎えるのです。その後、養殖事業はハマチからカンパチへと移行し、現在ではカンパチの生産量は単一漁協としては日本一を誇っています。平成16年7月、

このカンパチ“海の桜勘”は、かごしまの魚ブランドとして認定を受けました。また平成21年に始まった、垂水市漁協のカンパチ祭りは、今年5月で13回目を迎え、年を追うごとに県内外から多くの人々が海潟漁港を訪れています。さらに最近では教育旅行の民泊と組み合わせたカンパチの餌やり体験事業も行われ、漁業を通して海と人との関わりを学ぶ体験事業が展開されています。

(5) 農業

垂水は前に錦江湾、後ろに高隈山が迫って耕地が少なく、農業を営むには条件の悪い土地です。しかしこのことを逆手にとって、協和の先人たちは努力や辛抱を重ねて農業に従事してきたのです。



▲ 協和は田植え時期が早い(写真は5月31日)

協和地区では、米はもちろん、甘藷、煙草、サトウキビ、蜜柑、びわなど水利、地質や地形に合わせて農業が営まれてきました。キヌサヤエンドウは今や誰も知らない人はいませんが、昭和の初期にこのキヌサヤエンドウを中俣に導入したのが末田浅一でした。キヌサヤエンドウを蜜柑の間作として農家に勧め、戦前から戦後にかけて、垂水をキヌサヤエンドウの生産地としての

基礎を築き上げました。末田浅一の功績を後世に伝えるために、本城橋の南側に顕彰碑が建てられています。

畜産については明治のころまで牛馬は主に役畜として利用されていました。大正期に入ると、農家の副業として、また堆肥源として牛、豚、鶏の飼育が奨励されますが、協和地区もその例外ではありませんでした。特に肥育牛については大正の始め、中俣の才原金次郎は、自家飼育はもちろん、農家に対して子牛を預け、そして育った成牛を買い取るという肥育牛模合制度を設け、農家の現金収入の道を開いたのです。その後、牛の頭数は急激に増加していきました。才原金次郎の顕彰碑が地元の脇田一集落の南側に建立されています。



▲ 才原金次郎翁顕彰碑(脇田)

(6) 海潟温泉



▲ 江之島館と乗合バス(昭和10年頃)

海潟地区では江戸時代の終わりころ、垂水島津氏が、また明治の初めには公費を使って温泉掘削を試みましたが失敗に終わったと伝えられています。しかし、飛岡の海岸に一か所、温泉が湧出していました。

昭和初期まで温泉井戸から温泉水をくみ上げて沸かして利用していましたが、内田鹿太郎は昭和2年5月に温泉のボーリングに成功しました。これが海潟温泉郷の始まりでした。続く昭和4年には上之原熊

太郎が、昭和5年に井之上助右衛門、昭和7年に野嶋長四郎と川畑銀蔵が温泉掘削に成功し、海潟は一大温泉郷として鹿児島市を始め、近郷近在からの温泉客でにぎわうようになりました。通りに旅館、飲食店、料理屋、菓子屋、肉屋、果物店、雑貨店などが軒を並べ、鹿児島市と海潟を直接結ぶ垂水丸の航路もあったことを思うと当時の繁栄ぶりがうかがえます。

海潟地区は大隅半島唯一の温泉郷であると同時に、眼前に江之島、桜島を望む風光明媚な土地柄から、昭和20年代に入ると海水浴場、キャンプ村としても大きく発展しました。しかし、この地にあった協和小学校、同中学校が現在地に移転したあとに「なぎさ荘」が建設され、しばらくはこの地を訪れる人々も多くありましたが、長引く桜島降灰の影響や環境変化などによってキャンプ場は閉鎖されています。海潟温泉も昔の賑わいを失ってきていますが、風光明媚な自然を活かして海潟地区の再生に向けて立ち上がった若者グループ「海潟温泉再生会」も結成されています。

(7) 協和地区の現在

様々な環境の変化や桜島降灰の影響などから協和地区の人口は減少を続けており、平成26年8月末現在で881世帯、人口は1,889人（男性884人、女性1,005人）です。また、少子高齢化も進み、小中学生のいない集落も目立ってきています。



▲ 協和小学校運動会

このような状況下にあって、協和中学校は平成22年度をもって市内の4中学校とともに統合され、63年の歴史に幕を閉じました。一方、協和小学校には59人の児童が在籍（平成26年4月7日現在）し、元気に勉学に励んでいます。県教育委員会では、毎年、学校安全の一層の充実を図るため、学校安全の推進に多大な成果をあげている学校を表彰しており、平成24年度には協和小学校が表彰されました。特に学校防災において、学校の立地環境や過去の火山被害の状況を把握し、高い危機意識を持って児童の安全確保に努めていることが高

く評価されました。

郷土芸能については、協和地区には海潟の大太鼓踊り（うでこおどい）や疱瘡踊り（ほそおどい）、中俣上川踊り、中俣下川踊りがありましたが、現在では中俣下川踊りだけが六月燈や敬老大会などで踊られています。協和地区公民館では途絶えてしまった郷土芸能や休止状態のもの復活を目指しながら、現在は中俣下川踊りを公民館講座の一つとして位置づけ、地域を超えた会員の確保とともに、保存会では協和小学校生徒への指導と併せて後継者の育成と存



▲ 大太鼓踊りで打ち鳴らされたカネ
（米田 昭穂氏所蔵）

続に努力しています。

“ろっべ餅”はサツマイモを搗き入れた皮で黒砂糖を包んだもので、中俣地区に伝わる郷土の食物です。いま、その素朴な味を伝えようと、協和地区公民館で確かな動きが始まっています。



▲ ろっべ餅

海潟地区と中俣地区は大きく言えば、それぞれ漁業、農業を中心にした地域で

あり、両地区民がお互いに切磋琢磨しながら進展してきた歴史でもあります。降灰による農業不振や魚価の低迷など、苦境に立たされていますが、海潟地区のカンパチ祭は、協和地区のイベントとしてすでに定着しつつあり、カンパチ祭を核として協和地区の振興を目指す取組も模索されています。

また、海潟温泉を軸に、往年の海潟地区の賑わいを再生させようと、先述した「海潟温泉再生会」が平成25年1月に発足しましたが、温泉を活用した観光商品や物産商品の加工・販売、また温泉ソムリエの認定等に挑戦しています。中でも、きつい灰とりを競技化し、地域活性化に活かせばとの思いから、平成25年11月に行われた「スポ灰」はまさに逆境の時こそその発想の転換。桜島降灰に貼られたマイナスイメージの払拭につながる要素を持っています。「海潟温泉再生会」の今後の活動に期待が寄せられています。しかし、その一方で協和地区の振興に向けて、旧なぎさ荘跡地の整備は避けて通れない課題として残されています。

協和地区は、観光、温泉、農水産業、歴史、文化など地域資源の賦存量が、垂水市内でも屈指であり、且つバラエティーに富んでいます。

この協和づくり計画には、これらの地域資源を活かしながら、「明るく活力ある協和」を作るための要素が数多く詰まっており、協和地区住民は一体となってその実現に向けて取り組みます。

(執筆協力 瀬角 龍平氏)

【出典・参考資料】

垂水市史上・下巻(垂水市編纂)

ふるさとの歴史 垂水市協和編(中島 信夫著)

桜島大噴火 よみがえる災害記録(橋村 健一著)

垂水の農業の歴史と今後の農業の方向を探る(大窪 孝著)

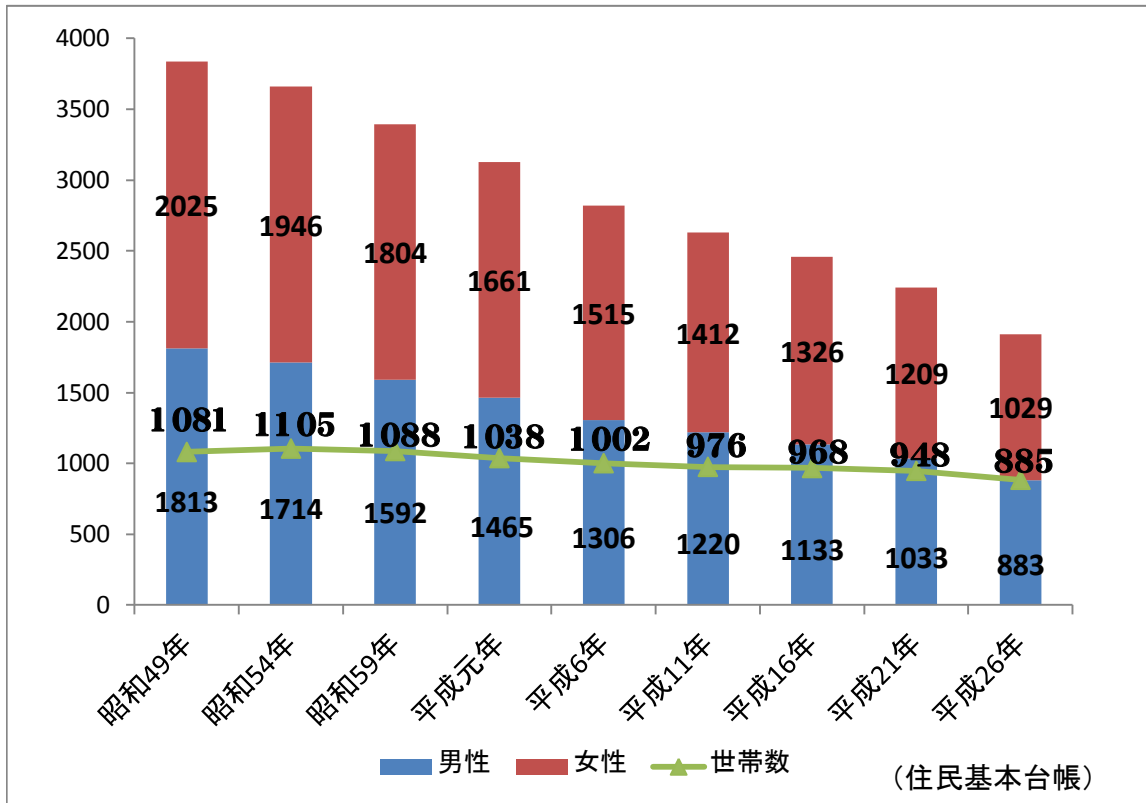
記念誌 協和小学校創立百周年(同記念実行委員会)

平成26年度版 教育行政要覧

「海潟温泉再生会」ホームページ

広報たるみず

(8) 協和の人口の推移



▲ 今宮神社六月燈

〈資料3〉 協和地区が紹介された新聞記事等

平成26年 8月27日 宮崎日日新聞

地域振興 川南を参考に

鹿児島・垂水から視察団

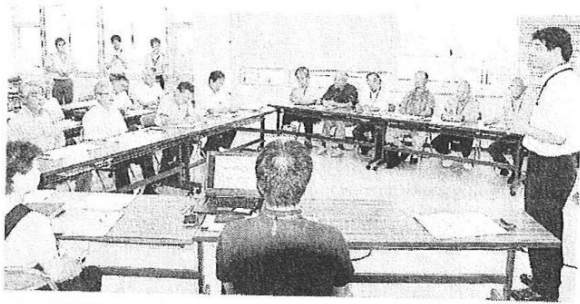
鹿児島県垂水市協和地区の自治組織関係者らでつくる「協和づくり計画策定委員会」（川畑三郎委員長）が川南町での調査、研修をこのほど実施した。新たな地域振興計画をつくるに当たり同町独自の取り組みにヒントを得る企画。同町の活性化グループ関係者らから経緯や苦労話を聞くなどした。

委員会メンバー、市職員10人は同町役場を訪問。同町の口高昭彦町長が「問題に向き合って進めばまちは元気になる」と歓迎し、その後、町職員、地域活性化グループ関係者らがこれまでの取り組みを紹介した。

具体的には、集落に眠る産業資源を地域住民らが自ら調査、発掘する事業「あるもの探し」を同町で実施し、そこから農、漁業者の絆が構築されて新たな地域活性化イベントが生まれる基になったことが説明されたほか、同町の新ご当地グルメ「浜うどん」の誕生秘話の紹介もあった。

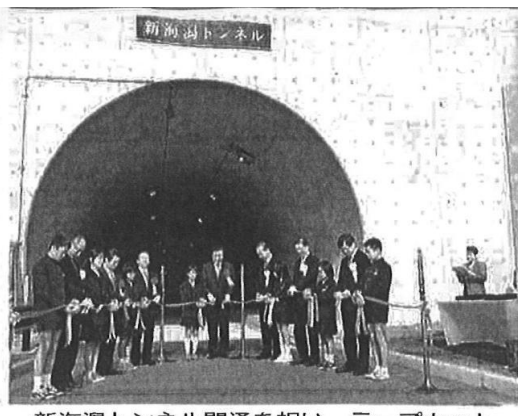
会合には同町の住民自治・末端行政組織「自治公民館」の館長らも同席。高い自治組織加入率を誇る垂水市の加入促進策を同市側に尋ねる場面もあった。

川畑委員長(67)は「みんなを引っ張っている関係者の頑張りについていい話を聞いた」と手応えを得ていた。



地域づくりの在り方について意見を交わした川南町、垂水市の関係者

平成26年 2月2日 南日本新聞



新海潟トンネル開通を祝い、テープカットする参列者
＝1日、垂水市海潟

新海潟トンネル開通

垂水市 国道220号

国道220号早崎改良事業(延長5.2キロ)の一環で建設していた垂水市海潟の新海潟トンネル(同151メートル)が1日開通した。

海潟トンネル(同93メートル)の海側に造った新たな。垂水市の尾脇雅弥市長は「桜島が近く、災害時の安心安全への役割は大きい。歩くと海潟トンネルは上り1車線とし、3月末までに幅2.5メートルの歩道を設置する。新トンネルは2012年9月に着工、13年12月に完成した。

計約1万台が通行。歩道がない上幅員が狭く、大型車の離合が危険だった。災害時の避難や物資輸送も懸念されていた。

早崎改良事業は1984年に開始。早咲大橋(同888メートル)、牛根大橋(同381メートル)をすでに整備。海潟トンネルの歩道設置で完了し、総事業費約32億円を見込む。(上山智子)



開通記念式典は同日、近くの協和小学校

9 今年の夏は、青い空と白い雲、太陽、そして海潟地区のひまわりを楽しむ

6月2日（月）、海潟で垂水地区農地・水・環境保全管理協定の皆さんと、はつらつ老人クラブの方々が合同でひまわりの種撒きを行いました。これは、多面的機能支払交付金事業の一環で景観形成のために植栽を行うことで、国道を通る人たちに農地へ興味を持ってもらう事を目的にしたものです。当日は20人が3時間ほどかけて10アールに種を撒きました。同協定運営委員役員の川畑三郎さんは「この活動に多くの方からご参加いただき、たくさんの方に農地のすばらしさを理解してほしいです。」と話されました。なお、ひまわりは7月下旬から8月上旬に開花予定です。



19 旧協和中学校跡地の校庭、日頃の感謝を込めて、奉仕作業を実施！

7月6日（日）、水之上・協和ソフトボールスポーツ少年団、垂水キッズ ST スポーツ少年団、協和地区のグラウンドゴルフ愛好家をはじめとする地域のみなさんの合計約40人が、旧協和中学校の校庭の灰取り作業と草払い作業を実施しました。これは普段から練習で使用していることに感謝し、地域奉仕作業の一環として実施したものです。当日は曇り空の中、午前9時から正午までの3時間で2tトラック10台分の灰と草を処分しました。参加者は、「グラウンドがきれいになり広くなったように感じます。」と作業後の汗を拭いながら気持ちよさそうに話されました。



桜島を望み、無人島の江之島（左）がある海潟地区（手前）



なぎさ荘跡地活用策を

垂水市は「花と溪谷と温泉のまち」とうたうが、観光客にとっては温泉の印象が薄いのが現状だ。名実ともに温泉をアピールするにはハード面の整備も今後必要になる。再生会メンバーや地域住民から多く聞こえるのが観光ホテル「なぎさ荘跡地」の活用だ。鹿児島県陽国体が開かれた1997年に天皇皇后両陛下（皇太子時代）が宿泊された。96年10月に閉鎖された。現在は1万6千平方メートルにわたっていたこの観光ホテル「なぎさ荘」跡地は市制十五周年記念垂水の歩み

ルするにはハード面の整備も今後必要になる。再生会メンバーや地域住民から多く聞こえるのが観光ホテル「なぎさ荘跡地」の活用だ。鹿児島県陽国体が開かれた1997年に天皇皇后両陛下（皇太子時代）が宿泊された。96年10月に閉鎖された。現在は1万6千平方メートルにわたっていたこの観光ホテル「なぎさ荘」跡地は市制十五周年記念垂水の歩み

跡地の敷地と4階建ての建物が残されている。「大隅で慰安旅行に行くとなれば決まっていた」と、当時を知る住民は懐かしむ。通りには居酒屋などが10軒以上並び、活況だった。ある住民は「今のなぎさ荘は草木でうっそうとしていて通りを歩くのが怖いという人もいます。温泉施設として再建してほしいが、せめて草木を整備してほしい。」

土地建物は岩崎グループが所有する。尾脇市長は、私企業の経済活動であり丁寧な議論が必要と

鹿児島県内のホテル・旅館施設数および客室数 (2013年3月31日現在)

	ホテル営業		旅館営業		ホテル・旅館	
	施設数	客室数	施設数	客室数	施設数計	客室数計
垂水市	0	0	6	93	6	93
指宿市	3	655	51	1339	54	1994
霧島市	18	1892	180	2618	198	4510

県生活衛生課調べ

した上で「何とかしたい」という思いは市も岩崎さん側も同じだと思う。市は、アジア成長を見込んだ誘客や修学旅行生の受け入れも積極的に展開しており、互いにどういった活用策を見いだせれば」と話す。

垂水市に建設した施設で交流人口が増えた一例がある。2005年に整備された「道の駅たるみず湯つり館」も同市牛根籠だ。宿泊施設ではないが、一概に比較できないが、13年の垂水市の交流人口は03年比約3倍の123万人にまで増加した。

なぎさ荘近くの温泉宿泊施設「江洋館」の堀之内順専務(46)は、既存施設の刷新も必要と前置きした上で、ロケーションが良く海潟の中心地にはやはり温泉宿が合うという。「競合ではなく、垂水市の核となる施設になれば、大隅全域への経済効果が見込める」と期待を寄せている。



名湯海瀉へ活気再び

垂水市海瀉は昭和初期に天然温泉が湧き出し、かつては指宿、霧島と並ぶ名湯として知られていた。だが、近年は活発化した桜島の降灰の影響などから観光客が減り、当時の活気は見られない。再びにぎわいをと立ち上がったのが、地元の有志ら約40人からなる海瀉温泉再生会だ。助走期間も含め活動を始めて丸2年。試行錯誤を重ねながら盛り返しを図っている。

(山下智弘)

スポ灰 温泉ソムリエ カンパチラーメン

垂水の有志ら試行錯誤

「観光名所」千本イチヨウを見に垂水まで来た観光客が、温泉は霧島に行く聞いて悔しかった。再生会を立ち上げた和田将史さん(36)はそう振り返る。「桜島の噴火が報道されるたびに客が減った。灰は大変で嫌、というマイナスイメージを逆手に取れないか考えた」この発想から生まれたのが「スポ灰」だ。厄介者の火山灰を制限時間内にどれだけ集められるか3人一組で競う。ユニークさの裏には、これを機に温泉や食、宿泊へ誘導する狙いがある。3月に海瀉漁港で開いた大会では9組が集まった。転動前の思い出づくりに参加した家族がいるなど、手応えを感じている。

「垂水市を巡るツアーをつくり、スポ灰と組み



合わせたらどうか」「参加者を増やすにはボランティアが必要」。18日夜、再生会メンバー9人が今秋の第3回大会に向けて意見を交わした。参加チームの目標数は前回の20組。県外客をどれだけ呼べるか、話し合

メモ 海瀉の天然温泉は1927年に湧出し、中島信夫著「ふるさと歴史(垂水市協和編)」によると、「次々と温泉イベントだが、スタッフを確保し、参加者を募るには数カ月を要する。年に数回しか開催できないのが難点で、観光客から常に注目を浴びる街に発展できるかが課題だ。昨年4月、「温泉のフロ」がいたる街として売り出そうと「温泉ソムリエ認定セミナー」を誘致した。季節に合った入浴の仕方や温泉分析表の見方などを学び、メンバー7人が認定を受けた。再生会の一員である尾脇雅弥市長は、全国初の「温泉ソムリエ市長」だ。

観光に欠かせない食の

1892(明治25)年に創業した温泉施設を視察し、代表の説明を熱心に聞く海瀉温泉再生会のメンバーら 指宿市十町

「海瀉の泉質は海沿いでは珍しいアルカリ性で、県内トップクラスの美人の湯。歴史もあり、まずは知ってもらおうことが大事」。県内の温泉を千力以上回った温泉ソムリエアンバサダーで、再生会に助言を続ける六三四さんは力説する。

「他人の意見を批判しない」という「おきて」がある。そのためアイデアは尽きない。現在、大手会社とタイアップし、宿泊客らに桜島や海瀉の歴史を寸劇で紹介する構想もある。海瀉漁港近くの無人島、江之島の活用も視野にある。名湯復活へ活発な議論が続く。

「海瀉の天然温泉は1927年に湧出し、中島信夫著「ふるさと歴史(垂水市協和編)」によると、「次々と温泉イベントだが、スタッフを確保し、参加者を募るには数カ月を要する。年に数回しか開催できないのが難点で、観光客から常に注目を浴びる街に発展できるかが課題だ。昨年4月、「温泉のフロ」がいたる街として売り出そうと「温泉ソムリエ認定セミナー」を誘致した。季節に合った入浴の仕方や温泉分析表の見方などを学び、メンバー7人が認定を受けた。再生会の一員である尾脇雅弥市長は、全国初の「温泉ソムリエ市長」だ。

「海瀉の泉質は海沿いでは珍しいアルカリ性で、県内トップクラスの美人の湯。歴史もあり、まずは知ってもらおうことが大事」。県内の温泉を千力以上回った温泉ソムリエアンバサダーで、再生会に助言を続ける六三四さんは力説する。

「他人の意見を批判しない」という「おきて」がある。そのためアイデアは尽きない。現在、大手会社とタイアップし、宿泊客らに桜島や海瀉の歴史を寸劇で紹介する構想もある。海瀉漁港近くの無人島、江之島の活用も視野にある。名湯復活へ活発な議論が続く。



▲ がんばれ協和！（平成 26 年 10 月 26 日 第 53 回市民体育祭）

あとがき

第 4 次垂水市総合計画には、地区の特性を活かしたまちづくりを進めていくことが謳われています。私たちの協和地区でも、平成 26 年度の協和地区公民館運営委員会において地域振興計画を策定することを決定し、住民の方々による策定委員会を設置しました。

その前段として、3月に協和地区まちづくり検討会を開催し、鹿児島大学の小栗有子准教授より「好きな協和を引き出そう」と題してご講演をいただきましたが、協和地区の社会資源や柔軟な発想について、改めて気付かされました。

策定委員会では、全戸アンケートの結果や委員のグループ協議などにより、活発な意見が交されました。また、課題に対する誠実な検討もその都度行われ、少しずつ前進していったと思います。さらに、7月に研修のため訪問した宮崎県川南町では、日高昭彦町長からの歓迎のご挨拶や新聞社の取材を受けるなど、取組の大きさを感じたところです。

協和づくり計画の大目標は、「桜島・カンパチ・温泉の町 みんなでつくろう明るく活力ある協和」という文言に決まりました。計画策定時と同様、行動を起こすとき、あるいは行動を起こしている最中には、様々な問題や課題に直面することが予想されます。そのようなときにもこの大目標を振り返って皆で分かち合い、昔ながらの協和らしさを発揮して、目指す協和づくりを進めていくことができると願います。今後とも地区の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、協和づくり計画にご尽力いただきました策定委員の皆様をはじめ、アンケート等にご協力いただいた地区の方々、市役所の方々、ご指導いただいた小栗有子准教授に厚くお礼申し上げます。

協和地区公民館長
協和づくり計画策定委員会委員長 川畑 三郎

